

寸言

HAPSモバイル株式会社
代表取締役社長 兼 CEO
宮川 潤一



HAPSが導く情報革命

この度は、伝統ある日本航空宇宙工業会に入会させて頂くことになり、大変光栄に感じております。

HAPSモバイル株式会社は、ソフトバンク株式会社の子会社として、2017年12月に設立しました。

インターネットの発展とともに成長をしてきたソフトバンクが、インターネットのさらなる発展を目指してつくった会社となります。HAPSモバイルは世界の情報格差をなくし、世界中の人々が幸せに豊かに暮らす社会の実現を目指しています。

最初のきっかけは、2011年3月11日に発生した東日本大震災でした。あの震災で、通信がつかない状況になり、多くの人々に影響が出ました。「地震や津波があっても途絶えることのない通信を実現させなくてはならない」という決意が芽生えました。

つぎに、世界に目を向けると、人類の多くがインターネットに接続できておりません。生まれた場所に左右されず、インターネットを平等に世界中へお届けし、どこでもつながる通信の実現を目指します。

「HAPS (High Altitude Platform Station)」とは、成層圏に飛行させた航空機などの無人機体を通信基地局のように運用し、広域のエリアに通信サービスを空から提供できるシステムです。HAPSを活用することで、山岳部や離島、発展途上国など、通信ネットワークが整っていない場所や地域に、安定したインターネット接続環境を構築することができます。さらに、地上の状況の影響を受けることなく安定した通信ネットワークを提供できるため、大規模な自然災害発生時における救助や復旧活動への貢献も期待できます。

HAPSの構築とグローバルでの事業展開を目

指して、地上約20キロメートルの成層圏で飛行させる成層圏通信プラットフォーム向け無人航空機を開発しました。翼に搭載したソーラーパネルで受ける太陽エネルギーを動力にしており、飛行時の二酸化炭素排出はゼロで、地球環境にやさしい機体です。機体の翼長は約78メートルで、平均して時速約110キロメートルで飛行します。雲などよりも高い高度を飛行して運用するため、ソーラーパネルで太陽光を常時受けることができる他、1年間を通して比較的風が穏やかに吹く成層圏の特長を併せて生かすことで、数カ月の長期間を安定して飛行することが可能です。

2019年9月以降、NASA (National Aeronautics and Space Administration、アメリカ航空宇宙局) のアームストロング飛行研究センター (Armstrong Flight Research Center) において、3回のテストフライトに成功しております。今後は、成層圏空域でのテストフライトに向けて準備を進めていきます。

HAPSモバイルは、2019年4月に対外的に事業内容を公表し、航空宇宙産業における取り組みを幅広くご理解頂けるよう日々邁進しております。今年2月には、成層圏の活用を通して、人々や場所、モノにインターネット通信を届けることを目指して、テレコミュニケーションやテクノロジー、航空業界における世界のリーディングカンパニーと結束して「HAPSアライアンス」を立ち上げました。

HAPSを通して航空宇宙産業と通信産業の融合を図るとともに、HAPS事業にご協力頂ける航空宇宙関係各社様との繋がり構築や情報共有を大事にしたいと考え、日本航空宇宙工業会に入会致しました。皆様との繋がり構築はまだ始まったばかりでございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。